

### 【全体協議会】

- 児童の気付きを大切に学習していく流れに共感した。  
今日の授業では助走を3歩、5歩と、歩数を限定せずに授業が進んでいた。助走の歩数に気付けないことがある。児童の気付きを大切にしているところまで気付きが到達しない場合や、児童の気付きがねらいからそれてしまった場合は、どのように支援していけばよいのか教えてほしい。

#### <部会より>

3年生では、助走の歩数を限定してしまうときこちなさが出てきてしまう。そのため、3年生では自然に踏切ができるように、助走の距離を限定して考えられるようにした。4年生の段階では、歩数もある程度しぼってけるとよいと考えている。

#### <小林統括指導主事より>

授業者は今日、授業を行って、どのように感じたか。

#### <授業者より>

今日の授業の子ども達は、3年生で高跳びの経験がない。助走距離を限定して、短い助走から3～5歩の歩数に限定していくことへ子供の思考をつなげていきかけたが、できなかった。

#### <部会より>

助走の距離は3m程度と考えている。実証授業は体育館だったので、自然に助走距離が限定されていった。今日の授業は校庭だったので、この範囲で助走をするということがわかりやすくなるように、コーンを置くなどして解決していきたい。

- グループの中で話題になった。3方向跳ばせるのはなぜかを知りたい。

#### <部会より>

低学年の跳の運動遊びからのつながりを考えている。低学年は正面から跳ぶことが全てであった。そのため、3年生でも正面からのアプローチが跳びやすいという意識をもっている。また、跳びやすさを実感させるためには、「跳びにくさ」を味わわせることが必要だと考えている。そのためにも3方向経験させた。部会では、中学年の授業を「高学年化させない」ということを意識して授業をつくってきた。中学年の段階では、あえてぎこちなさを味わわせていきたい。

### 【指導・講評】 講師：新宿区教育委員会 統括指導主事 小林 力 先生

- 授業者に聞きたい。今日の授業を実践するうえでこだわったことは何か。  
<授業者より>  
自分たちで見付けた課題を、高跳ビンゴでも意識させられるように声掛けをした。
- 写真を見ても分わかるように、授業者が振り返りをしている子供たちの中に入って丁寧に指導していた。高跳ビンゴ（主運動）に入る前に、もう一度今日の課題を意識させる発問があった。児童が自分から課題に気付くためには、今日のように意図的に教師が発問していくことが大切である。

<2月の区部発表に向けて、この研究を一般化していくためには>

- 授業の中ではずしてはいけない発問、言葉がけがある。これを誰にでもわかる形で提示していく必要がある。
- 「短い助走」とは何か。読み手にもわかるような表現を意識していかなければならない。まるわかりハンドブックを参考に、言葉を部会でどのようにとらえたのか示していく必要がある。
- 同じ学校の先生に部会の資料を見せようとい。見てもらい、この資料の何がわからないかを聞いて一般化していくために必要な意見をもらおうとい。
- 子供たちが課題を解決できるようにするためには、課題を選択できるようにしていくことが必要である。さらに、キーワードでまとめていけるところまで絞ってけるとよい。